



神さまの守りの中で  
のびのび育つ子どもたち



宗教法人日本キリスト教団片瀬教会付属  
**片瀬のぞみ幼稚園**  
Katase Nozomi Kindergarten

**片瀬のぞみだよ  
り**

**2019年1月号**

家庭通信 2019 No.

2019年 1月主題聖句

**「求めなさい。そうすれば、与えられる。」**

マタイによる福音書7章7節

牧師（設置者）磯部理一郎

片瀬のぞみ幼稚園の皆さん、新年、明けまして、おめでとうございます。主の年代（A. D. : Anno Domini）である2019年を迎えました。2018年から2019年へと進み、着実に、神さまのみ国は、わたくしたちのうちに築き上げられてゆく確かさ、またその喜びを禁じ得ません。園児の皆さんひとりひとりの成長のただ中に、いよいよ神さまのみ国は到来して、朽ちない恵みの命が築かれています。新年を迎え、まさに神さまの愛と恵みのみわざによって、さらにまた《新しい生》を生きる時を迎えた、と言えましょう。お互いの命の新しさそして確かを覚えつつ、心より、お喜びのご挨拶を申し上げます。

さて、主の2019年1月の保育主題は、「求めなさい。そうすれば、与えられる。」（マタイによる福音書7章7節）という新約聖書のみ言葉による主題です。このみ言葉は、新約聖書のマタイによる福音書からのみ言葉で、ガリラヤ湖畔の岸辺に集う大勢の群衆を前に、山のような高台から、イエスさま自らが実際になさった「山上の説教」と呼ばれるお説教の一部です。つまり、多くの弟子たちが、直接にイエスさまのお説教を聞いて、溢れる命に導かれたように、幼稚園でも同じように、イエスさまのみ言葉を聞いて、こどもたちひとりひとりが、力強く逞しくそして愛に

満たされ、命に溢れて、成長しましょう、というあづい願いによるものです。

「求めなさい」とは、誰が誰に対して求めるのでしょうか。「与えられる」とは、誰から誰に与えられるのでしょうか。或いは、「求めなさい」「与えられる」と言われていますが、いったい何を求め、何が与えられるのでしょうか。改めて考えてみましょう。言うまでもなく、このお話しをされているのは、イエスさまご自身です。イエスさまは、天から地上に降って来られた神の子メシア（キリスト：救い主）です。つまり天の神さまが、イエスさまを通して、告げ語った神の言葉であり、約束の言葉です。だとしたら、当然ながら、わたしたちが求めるべき相手は《神さま》ですし、わたしたちに与えてくださるお方も、《神さま》です。では、こどもたちは、神さまにいったい何を求めればよいのでしょうか。皆さんでしたら、神さまに何を求めになるのでしょうか。ここで、とても大切なことは、神さまでないと、求められないことやもの、神さまでないと、与えられないものやことがある、ということです。相手が、神さまだからこそ、求められる、与えられること、或いは、神さまでなければ、求められない、与えられないこととは、いったい何なのでしょう。

このお話しの直前にイエスさまは、「6:31 だから、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思い悩むな。6:32 それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである。6:33 何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。6:34 だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である。」と教えています。神さまだからこそ、求められること、与えられること、また神さまからしか、いただくことができないもの、それは《神の国》と《神の義》だと言うのです。

神の国とは、神さまが永遠の命をもって、愛と正義と公正によって、お導きくださる神のみ国を言います。神の義とは、神の御子であるイエス・キリストの十字架と復活により、人間の救いのために与えられた罪と死からの解放であり、永遠の命の祝福と平和です。この神の愛と平和と祝福に包まれ満たされて、人々が互いに敬愛と信頼をもって暮らし合える平安を言います。そうして、ひとりひとりの人格は永遠の命に満ち溢れ、人と人之间には愛と正義と公正が貫かれ、皆共に喜び合って生きることができることを言います。みんなが、命に溢れ、みんなが愛と平和の中で、共に喜び愛し合えることを、先ず求め合いなさい、ということではないでしょうか。こどもが、健やかに育つ場、それはまさに、神の国であり、神の義が立てられる場なのです。

教育の依って立つ基本は、《人》であることの意義と価値、尊厳を知ることにあります。人であることに、絶対の誇りと希望を見出せる場所、それが、神の国に生き、神の義を立てることにあります。神の国は、遠い遠い叶わぬ非現実な理想郷ではありません。神は、イエスという名でクリスマスに、人類のただ中に、ひとりひ

とりの人格の中枢に、降って来られました。イエスさまは自ら十字架にかかり、どんな罪も悔い改めれば赦されることを示され、復活して、死んだら全てが消滅してしまうのではなく、永遠の命に生き続け尊厳に満ちた生に生かされていることをお示しになりました。この世にあって賤しめられ、否定され、破壊されようとも、人は皆、神の国に生まれ、神のもとで完全に愛され、信頼され、永遠の命に溢れ、尊厳に満ちた尊い神の子として生まれ育つ神の子なのです。

先ずわたくしたち人間自身が、真剣に本気で自分自身の尊厳を求めるべきでありましょう。そして神の愛と恵みにより、人間として与えられている、尊厳と喜びと誇りを知るべきではないでしょうか。罪や過ち、失敗は常に起こります。しかし何度でも罪や過ちを悔い改め、真の尊厳と命を求めて、赦しを戴き、全力を尽くして、《人》であることの意味を求め続けて、生きてゆければ、と願います。